

私実践している資産形成法

1. F P の資産形成法

(1) コンサルタント的思考方法

全体思考	最も重要な思考方法。全体をつかむ。内訳をみる。時空で比較する。
長期思考	重要性を重視。短期的な目的や利益よりも長期的な目的や利益を重視する。
客観思考	重要な事実をベースとする。論理的・合理的に思考する。

(2) 環境の変化と個人の資産形成の現状

バブル崩壊と失われた20年	1990～2010年頃の20年。歴史的にみて様々な経済指標がピークを打った可能性が高い。
人口減少・高齢化	2005年から減少傾向に転じる。高齢者が4人に1人。
財政悪化	GDPの2倍弱の長期債務。先進国のソブリンリスク。
社会保障制度・税制	社会保険料・税金の負担増は、インフレ・資産価値の減少と同義。
金利・物価・為替	実質金利（名目金利－インフレ率）では、日本とスイスが相対的に高い。円高要因の一つ。
個人の金融資産とその内訳	現預金の比率は55%で20年前と変わらず。株式・不動産は低迷。
貯蓄率	2007年度から増加傾向に転じる（2009年度5.5%）が、過去と比べてまだ低水準。

(3) F P の視点

金融資産	リスク・コストの把握。条件に合ったスクリーニング。分散。長期投資。
保険	保障性と貯蓄性。社会保障制度の把握。必要保障額の算出。
不動産	居住用不動産の所有と賃貸の比較。不動産の有効活用。投資不動産。負債のコントロール。
税金	所得税の体系から税金計算。合理的な選択。
相続	次世代への円滑な資産承継。生前の対策。遺言の活用。相続税の計算と対策。

2. 私の資産形成法

(1) 資産運用と資産運用ビジネス

資産運用	投資家が自らリスクをとって行う。ゼロサム。
資産運用ビジネス	資産運用の機会と情報を提供するサービス業。

(2) 自分でコントロールできること、できないこと

コントロールできること	自分の時間・コスト・リスク・心身・能力（知識・考え方）はコントロール可。
コントロールできないこと	環境や相手方の判断で決まることはコントロール不可。

(3) 価値観と資産形成

クレド	朝晩確認して、必要に応じて修正する。
シンプルな資産構成による資産形成	複雑なことはその分労力・時間・コストがかかる。シンプルな資産形成。資産形成のための時間を極力使わない。 （１）居住用不動産（都内駅近で閑静な高台に位置する第一種低層住居専用地域物件）を最近購入。（２）債券・投信は保有していない。（３）株式は事業内容と経営者で判断した少数銘柄を長期保有。最近 Apple は対象から外した。 （４）保険は加入していない。（５）資産構成の見直しは半年に１度。（６）５０歳をめどに大幅に人生設計を変更する予定。
生産性	時間当たりの収入。時間コスト。
減価償却費	時間当たりのコスト。選び抜いた最高のものを長期保有。
sunkコスト	過去にこだわらない。影響を受けない。
パートナー、職業	慎重に選択する。仕事上・生活上のパートナーの選択や職業の選択はFPの領域外だが、資産形成上も極めて重要。
3C (Customer、Competitor、Company)	世の中のニーズがあり、自己の強みであり、他人がマネしにくいことに集中する。
貯蓄と資産運用	収支の結果としての貯蓄と資産運用による利益。

(4) ウォーレン・バフェットが40年間貫いている銘柄選定基準

経営者	誠実で有能なこと。
事業	シンプルで強みが長く続くこと。
株価	株価ではなく、財務諸表で企業を判断。

3. まとめ

自分でコントロールできる範囲を見極める。	自分の力ではコントロールできないことに、余計な労力・時間・コストを費やさない。
判断ミス・ロスを少なくする。	判断ミス・ロス（コスト）が発生しないように行動する。本当に必要で選び抜いたもの以外は買わない（投資も同様）。
自己を着実に進化させる。	見えること、分かること、納得できること、確率が高いと推測できることを基準にして行動する。